

平成30年度・令和元年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



令和元年 11 月 22 日 (金)

いちき串木野市立羽島中学校

目次

I	はじめに	1
1	いちき串木野市の概要	1
2	校区の概要	1
3	羽島中学校の概要	1
II	研究の概要	2
1	研究主題	2
2	主題設定の理由	2
3	研究の仮説	2
4	研究の目標	2
5	研究組織	3
6	租税教育全体計画	3
7	研究の経過	4
III	研究の実際	5
1	職員研修	5
2	社会科の取組	6
3	租税教室の実施	7
4	校外学習の実施	14
5	長期休業中の課題における取組	17
6	租税コーナーの設置	19
IV	研究の成果と課題	19
1	税に関する実態調査（アンケート）から	19
2	研究の成果	21
3	今後の課題	22
V	おわりに	22

I はじめに

1 いちき串木野市の概要

西に白砂青松が続く吹上浜の海岸線を臨み、東に徐福伝説の霊峰冠嶽を控えるいちき串木野市は、海・山・温泉などの自然と温暖な気候に恵まれた風光明媚な場所に位置し、また、3つの駅・2箇所的高速インターなど生活環境と利便性にも恵まれたまちである。そして、縄文後期に人々が漁労や狩猟をして生活を営み、広い範囲にわたって人と物と情報の交流をしていたことを示す県指定文化財の市来貝塚や、徐福伝説とともに薩摩における山岳仏教の中心地として発展してきた冠嶽、さらに、江戸時代の陸上交通において九州筋の宿場として、また海上輸送の一中心地として物資等の集散地となり、宿場町と商業の地として栄える一方、金鉱業と遠洋まぐろ漁業のまちとして栄えてきたという、これまでに累々と積み重ねられた歴史と、そこから生まれた文化がある。また、いちき串木野市は、1865年薩摩藩英国留学生19名が近代日本の礎を築くため翔ばたい黎明の地でもあり、私たちがこの勇敢な先達の思いを胸に、今再びこの地から21世紀の夢を発信していきたい。（いちき串木野市HPより）

【市章】



2 校区の概要

いちき串木野市中心部から海沿いに北西へ約9km、市の北西部に位置し北は薩摩川内市、東は荒川校区に接し、西部及び南部は東シナ海に面している。平野部は少なく、海岸沿いに集落がある。

羽島は、五代友厚、森有礼、寺島宗則、長沢鼎などの若き薩摩藩士19名が、慶応元年（1865年）4月17日、日本の夜明けを求めて、西欧に向けて船出した記念の地である。毎年4月、薩摩藩英国留学生の勇気や功績を後世に語り継ぎ、次代を担う青少年たちに夢や希望を与えることを目的に黎明祭が催される。

旧暦2月4日に行われる羽島崎神社の春の大祭「太郎太郎祭り」は豊作と大漁を祈願する独特の祭りで、県指定無形民俗文化財である。また、南方神社の夏の大祭「太鼓踊り」は中高校生や青年層を中心に、郷土の伝統芸能として受け継がれている。

本校区は年々過疎化、高齢化が進み、学童児童生徒が減少の一途をたどっている。校区民は結束力が強く、人情も厚い。また、子弟の教育には熱心で学校教育にも協力的である。

3 羽島中学校の概要

本校は、生徒数24名（4学級、特別支援学級1学級を含む）、職員数14名、創立72年の歴史と伝統を誇る学校である。「人権尊重の精神を主軸に、心身ともに健康で、確かな学力と豊かな感性を身に付け、一人一人の個性・特性を伸ばし、創造性豊かでたくましく生きる生徒を育成する。」を教育目標とし、「強く・正しく・明るく・清く」の校訓のもと、「9年間で育てる羽島の子ども」をキャッチフレーズとして、生徒・教師一丸となって教育活動に日々取り組んでいる。

II 研究の概要

1 研究主題

租税教育を通して、税に関する興味・関心を高めるとともに、税や財政についての理解を深め、主体的に社会を支えようとする態度や資質を育成する。

2 主題設定の理由

国民が、生命の安全や健康、また、最低限度の生活を保障されて豊かな生活を送るためには、国や県、さらには市町村の財政が健全に行われることが第一である。

租税教育の目指すものは、「平和的な国家及び社会の形成者として資質を養い、生徒を取り巻く身近な事象を捕らえてこれを民主的な観点に立って深く考え、更に望ましい実践的な態度や習慣を身につけさせていく」ことである。また、鹿児島県における租税教育は、「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てる」ことにねらいを置いている。

生徒は、全体的に素直であり、教師の指示に対してもきちんと応えようとする生徒が多い。男女の仲も良く、落ちついて生活している。ただ、積極性に少し欠ける面が見られる。税に関する事前のアンケートでは、税への興味・関心がある生徒の割合が低く、税について家庭で話をするという質問に対しても「ある」「少しある」と回答した生徒は9%と低い。一方で、「税金は必要」「役に立っている」「学ぶべき」と感じている生徒は90%を超えている。

以上のことから、租税教育を通して生徒の税に関する興味・関心を高める中で、正しい知識・理解を深め、主体的に社会を支えようとする態度が育成されるよう本主題を設定した。

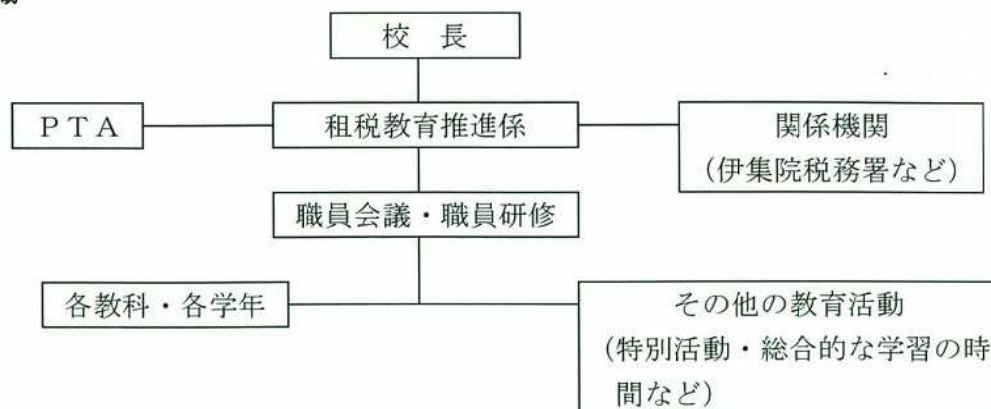
3 研究の仮説

各教科やその他の教育活動で租税教育を取り入れることで、税に関する興味・関心を高め、知識や理解を深め、主体的に社会を支えようとする態度や資質を育成することができるのではないかと仮定する。

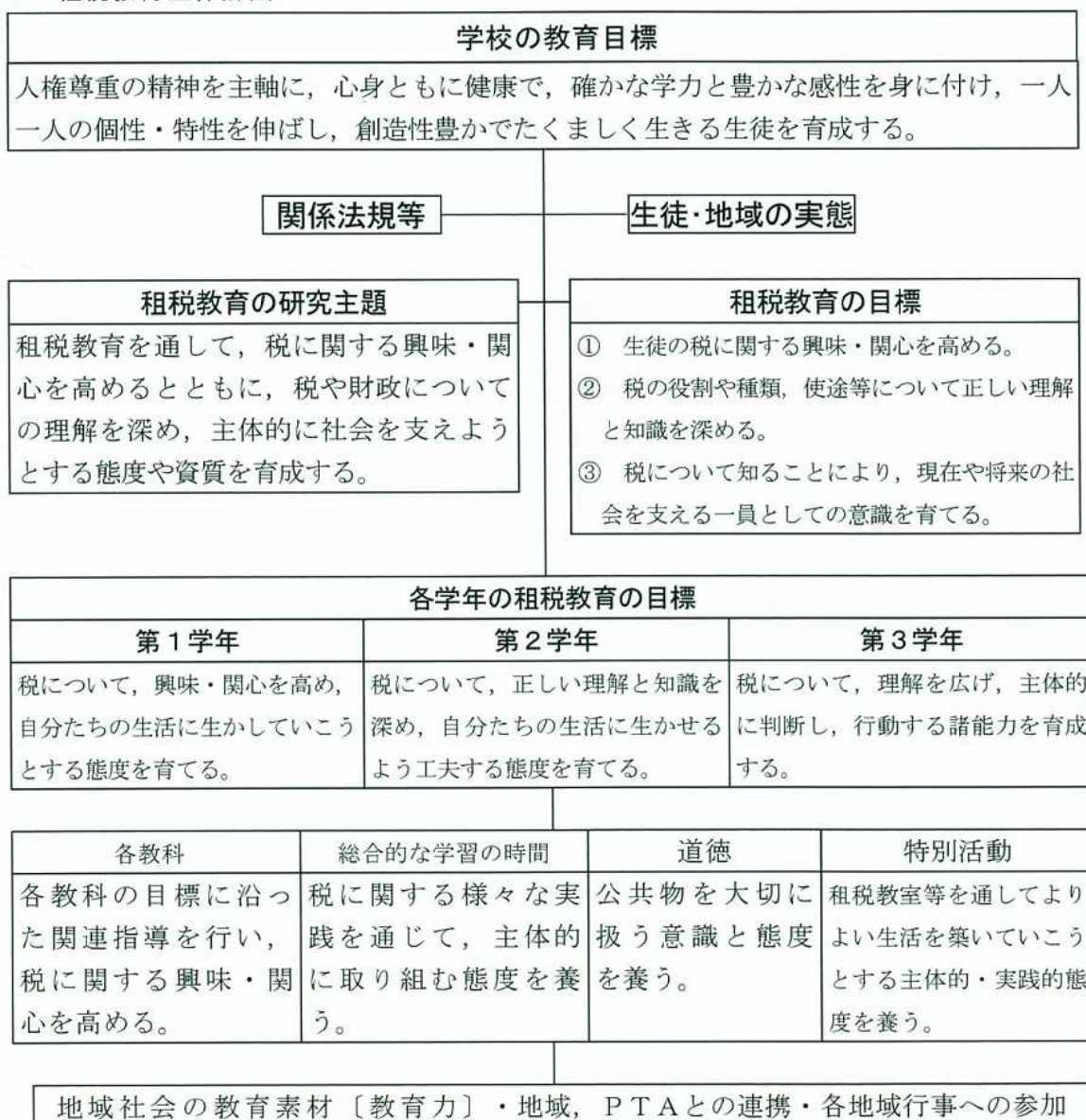
4 研究の目標

- ① 税に関する興味・関心を高める。
- ② 税の役割や種類、用途等について正しい知識・理解を深める。
- ③ 現在や将来の納税者の一員として、何ができるのか、考えさせるきっかけとする。

5 研究組織



6 租税教育全体計画



7 研究の経過

平成30年度（1年目）

月	内 容
6	・研究委嘱を受ける。（伊集院税務署・鹿児島税務署 計4名 来校）
7	・職員研修（租税教育の進め方） 講師：伊集院税務署職員 ・税に関する学習と税に関するアンケート実施。（各学年に社会科が実施） ・夏休み課題「税の作品」への取組（標語・作文）
8～9	・全体計画・研究組織の立案，共通理解（職員会議）
11	・文化祭にて「税に関する作品」展示発表 ・平成30年度「鹿児島県租税教育研究会」へ2名出席
12	・租税教室（全学年） 講師：伊集院税務署職員
1～3	・初年度のまとめ

令和元年度（2年目）

月	内 容
4	・本年度の計画案作成（職員研修・租税教室・校外学習等）
5	・職員研修（身近な税について） 講師：伊集院税務署職員 ・日置地区租税教育推進協議会参加（運営委員）
6	・租税教室（全生徒）講師：九州財務局鹿児島財務事務所・鹿児島税務署5名 ・税に関するアンケート実施（各学年に社会科が実施）
7	・夏休み課題「税の作品」への取組（標語・作文・習字）
10	・校外学習（鹿児島県庁・鹿児島税務署）
11	・文化祭にて「税に関する作品」展示発表 ・令和元年度「鹿児島県租税教育研究会」での研究報告
12～	・研究のまとめ

Ⅲ 研究の実際

1 職員研修

平成30年6月に租税教育研究校の委嘱を受け、最初に行った取組が、職員研修である。すべての教職員が、租税についての興味・関心を高め、今後の租税教育の推進に役立てることと、すべての教職員がかかわっていけるような租税教育の確立を目的として職員研修で「租税教育」をテーマとした研修を2回行った。

1回目は伊集院税務署の職員を講師に招き、租税教育の基本的な考え方と各教科による実例などをもとに租税教育の進め方について、プレゼンテーションソフトを活用しながら説明を受けた。

また、2回目の職員研修では、平成30年度版「暮らしの税情報」(国税庁)をもとに、私たちの生活に直接関係しそうな税について学んだ。特に「配偶者特別控除」や「消費税の軽減税率」については、職員からの質問などもあった。研修後、「これまで知らなかった税のことについて学べて良かった」と好評だった。



【委嘱状を受ける町田校長】



【委嘱後の説明】



【職員研修1】



【職員研修2】

2 社会科の取組

社会科の授業では、税についての直接的な学習は、3年生の「公民分野」で学習する。そのため、1・2年生への取組を充実させるために国税局ホームページキッズコーナー「税の学習コーナー（発展編中学生向け）」を参考にして、1・2年生を対象に「税についての授業」を実施した。

羽島中第1・2学年 学習指導略案 平成30年7月5日			
指導者等	1年生・2年生 計16名 指導者 畠中淳一		
題材名	税について知ろう		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> 税の必要性を理解する。 税の歴史、種類、内訳、国際比較などを行い、税について理解を深める。 		
過程	主な学習活動	時	指導上の留意点
導入	1 「税」と言われて、どのようなものを思い浮かべるか発表する。	10	<ul style="list-style-type: none"> 思い浮かべた事を自由に発表させる。 知っていることを自由に発言させる。
	2 税について知っていることを発表する。		
	3 学習課題の設定		
税とはどのようなものなのか？ ～歴史・種類・内訳・国際比較しながら～			
展開Ⅰ	4 税の歴史を理解する。	25	<ul style="list-style-type: none"> 国税局HPの資料 「私たちの生活と税」 ワークシート1 ワークシート2 身近な消費税を中心に考えさせる。
	5 税の種類を理解する。		
	6 税の内訳を知る。		
	7 国際比較をする。		
展開Ⅱ	8 「もし税がなかったら？」 消防車が有料 ごみ収集が有料	10	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート5 ペア（グループ）で話し合わせて発表させる。
終末	9 感想を書き、今後の「税の作文」作成への意識を高める。	5	<ul style="list-style-type: none"> 「税の作文」の説明をする。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 税の必要性を理解することができたか。 税の歴史、種類、内訳、国際比較などを知り、「税の作文」作成への意識を高めることができたか。 		

医療費がすべて自己負担に



救急車が有料に



交番が有料に



生徒の感想

こんなにも税が古くからあると知ってびっくりした。税の種類も思っていた以上にたくさんあり、驚いた。また、日本がすごい借金を抱えていることを知った。

「もし、税がなかったら」を見たとき、救急車が有料になったりすると聞いたら、すごく税って大事だなと思いました。

3 租税教室の実施

(1) 平成30年度租税教室 ～平成30年12月21日（金） 全校生徒（22名）～

講師：伊集院税務署職員

ねらい

- ① 租税の意義や役割を正しく理解させる。
- ② 社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持たせる。
- ③ 納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる。

実施内容

- ① はじめの言葉
- ② 講師紹介
- ③ 税の種類やしきみなどに関する講話(プレゼンテーションソフトを使つてのクイズ)
- ④ 生徒代表お礼の言葉
- ⑤ おわりの言葉



【説明する伊集院税務署職員】



【クイズの答えを考える生徒たち】



【講話を真剣に聞く生徒たち】





【お礼を言う代表生徒】



【1億円のレプリカ】

生徒の感想

今回の租税教室では、納税の大切さを知ることができました。公民で学んだ事が、時々話に出てきて、だいたいの内容は理解できたので、自分で深く考えながら話を聞きました。身近すぎて忘れていましたが、教科書や校舎、体育館などにも税が使われていることを知って、税のおかげで色々学べているのだなと実感しました。また、クイズも楽しく、知らなかったことがわかったのでよかったです。

今回学んだ事を将来に生かしていきたいなと思いました。納税をしっかりと、お金を大切にしていきたいです。

今回の租税教室で、税についてしっかり学ぶことができた。社会の授業では習わなかった部分もあり、とても勉強になった。「トン税」や中国よりも日本の消費税が安いなどクイズ形式で楽しく学べた。

今、僕たちが納めているのは消費税だけだが、これから大人になるにつれて増えていくので日本人としてしっかりと税を納めたいと思った。そして、税金が自分たちの生活の様々な所で使われているということを意識して過ごしていきたい。

今回の租税教室で1人1人が税に関心を持つことが大切なのだと思います。ですが、今まで私は、税について何も考えず生きてきました。社会の公民で税の種類を習ったぐらいです。でも今回の教室で、わかりやすい3択クイズや説明を聞いて、税について少しでも知ることができ、また、税に関心を持つことができました。そして、これから絶対に必要な消費税についてもっと知りたいと思いました。最後には、1億円という金額のかたまりを持ちました。とても重くてずっしりしていました。

これからの生活で税とたくさんかかわると思うので、今回のことを忘れず生かしていきたいと思います。

(2) 令和元年度租税教室 ～令和元年6月8日(土) 全校生徒(22名)～

講師：九州財務局鹿児島財務事務所職員 3名

鹿児島税務署職員 2名

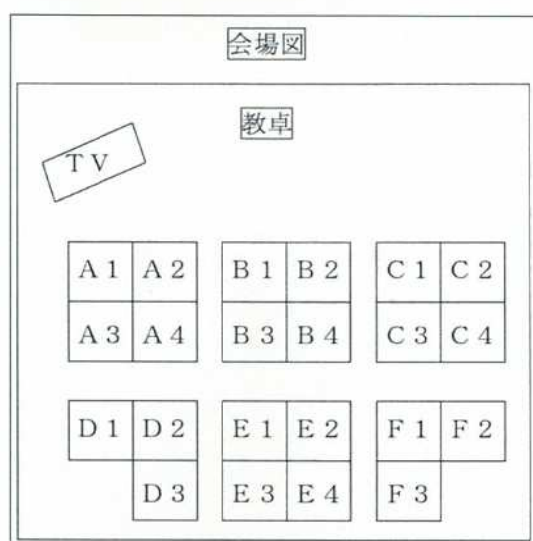
計5名(広報担当含む)

ねらい

- ① 日本の財政の現状を理解するとともに、私たちの生活の中に税がどのように使われているか理解させる。
- ② 体験的な活動を通して、日本の財政について話し合い、税の必要性について理解させる。
- ③ 納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる。

実施内容

- ① はじめの言葉(講師紹介含む)
- ② 日本の財政についての講話・動画視聴
- ③ タブレットを使ったグループワーク
- ④ 各グループによる発表
- ⑤ お礼の言葉
- ⑥ おわりの言葉



はじめに、財政学習教材「日本の財政を考えよう」のパンフレットを使って、財政についての説明を受けた。税の種類や国の歳入・歳出など基本的な事項も丁寧に説明していただいた。特に1990年以降、国の歳出が増える一方、税収は伸び悩み、その差が「ワニの口」のように開いてしまい、その差を埋めるために国の借金が883兆円に達する見込みだと現状を知り、驚いた様子だった。



【講師から財政についての説明を受ける】

その後、会場図のように3人～4人でグループワークを行った。グループワークの概要は

「みなさんは今日から財務大臣です。どのように税金を集めて、集めたお金をどのように使えば、日本の未来をよくできるか、ということを考えながら、グループのみんなで国の予算案を作ってみましょう」

と設定され、各班に「グループワークの手引き」「ワークシート」「タブレット」が配布された。

【配付資料】

①グループワークの手引き(A4) ※1人1部ずつ配付 ②ワークシート(A3) ※1グループ1部ずつ配付

【グループワークの手引き】
財務大臣になって予算を作ろう！

【①ワークシートの手引き】

【②ワークシート】

入力エリア

支出		内 訳				
社会保障	年金	医療	介護	子ども・子育て	生活保護等	
現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持

収入					税以外の収入
所得税	消費税	法人税	その他の税	税以外の収入	(5兆円)
現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持

確認エリア

予算総額	
31年度	99兆円
予算案	90兆円

予算案では借金の総額が
9兆円 増えます

【タブレットの画面】



【講師の説明】



【アドバイスを受ける生徒】



【タブレットを操作して予算を作成】



【予算作成の話し合い】

グループワークシート【財務大臣になって予算を作ろう!】

日 月 年 班

1. 予算案のテーマを決めよう。(例)「高齢者に優しい社会」、「教育の充実」など

2. グループで理想の予算を考えよう。グループで話し合った内容(増減した理由など)をシートに書き込みながら決めてください。

歳出予算		歳入予算	
1-1 社会保障(年金) 増減()% 削減()% 理由: 高齢化社会で高齢者の生活が安定できるようにするため	1-2 社会保障(医療) 増減()% 削減()% 理由: 高齢化社会で高齢者の生活が安定できるようにするため	1-3 社会保障(介護) 増減()% 削減()% 理由: 高齢化社会で高齢者の生活が安定できるようにするため	1-4 社会保障(子ども・子育て) 増減()% 削減()% 理由: 少子化対策として子育て支援を充実させる
1-5 社会保障(失業保険など) 増減()% 削減()% 理由: 失業率を下げ、雇用を創出するために	2 公共事業 増減()% 削減()% 理由: 道路や橋の整備などにより、地域の活性化を図る	3 その他 増減()% 削減()% 理由: 科学技術振興、環境対策、防災対策など	4 消費税 増減()% 削減()% 理由: 消費税率の引き上げによる増収
歳出 合計 増減()% 削減()%		歳入 合計 増減()% 削減()%	

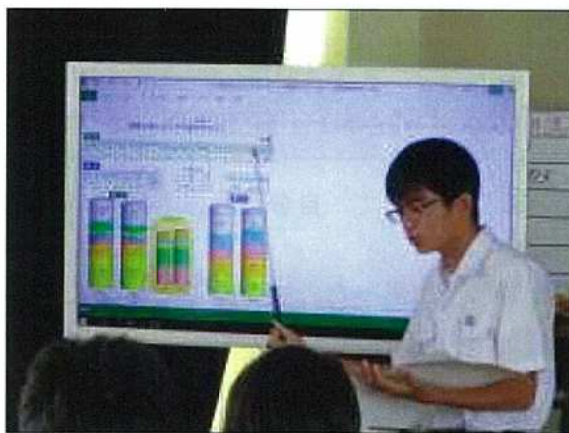
増 減
 増 減
 増 減

【グループで考えた予算案】

予算案の作成にあたり、歳出は「社会保障」「地方への交付金」「公共事業」「防衛」「教育」「その他（科学技術・食料安定供給・エネルギー対策・国際協力）」の項目から増減を検討し、歳入は、「所得税」「消費税」「法人税」「その他（ガソリン・酒・たばこなど）」の項目から増減をシミュレーションした。

各班は、テーマを設定し、そのテーマに沿った予算編成を実現させるためにはどうするかを話し合っていた。ある班は、「暮らしやすい環境づくり」というテーマを設定し、予算編成を行ったが、社会保障関係費を増やし、なおかつ借金を減らそうとすると、消費税、所得税、法人税を10%増額しても上手くいかず、その他の税（たばこ・酒などの嗜好品）を30%も増額する予算編成となった。自分たちがめざす社会を実現していくには、相応の税収入が必要であることを知り、改めて税の大切さを実感したようだ。

小規模校であるが故に、異年齢のグループ構成になったり、上級生が下級生に教えたり、説明したりする活動が増え、自己有用感の育成にもつながったようだ。



【予算案の発表】



【お礼を言う代表生徒】

中学生財務相、が予算編成
いちき串木野 羽島中で租税講座

いちき串木野市の羽島中学校で租税と財政について考える講座が、羽島中は昨年度からあった。1〜3年生21人が、税収の内訳や税金の使い道を学び、財務大臣 になって予算編成をするグループワークをした。羽島中は昨年度から県租税教育推進協議会が、税収の内訳や税金の使い道を学び、財務大臣 になって予算編成をするグループワークをした。羽島中は昨年度から県租税教育推進協議会が、税収の内訳や税金の使い道を学び、財務大臣 になって予算編成をするグループワークをした。

「財務大臣」として予算を発表する生徒
＝いちき串木野市の羽島中学校

うな社会にしたいかを考え、そのための予算編成を話し合った。「憲法で戦力は持たないと決めているから防衛費を減らす」「年金を減らす。人手不足だからほかに稼ぐ手段はある」など鋭い意見が次々と出され、議論は白熱した。

2年の前田大吉さんの班は「災害対応のため防衛費増」「一人暮らしで病気になる人が増えるため生活保護費増」とし、その分たばこ税・酒税を増やした。前田さんは「消費税は身近だけど、税の使い道は考えたことがなかった。みんなで協力してできた」と充実した表情だった。

(田畑沙織)

【令和元年6月20日付 南日本新聞】

振り返りシートより

質問1 日本をよくしていくために、予算について今後どうすればいいと思いますか。

- ・大人の人たちが、毎日一生懸命働いたりして払った大事な税金だから、しっかりと予算案を立てて、国や困っている人たちに使って欲しい。また、これから先、新しい未来を作っていく僕たちもしっかり頑張っていきたい。
- ・日本は高齢化が進んでいるから年金や介護の方にお金を増やすことが大事かも知れませんが、他の税も増やしたりしていかないと借金が増えていく一方かも知れません。
- ・税金を上げると負担が大きくなるように思うから、国のために使っているお金を少しずつ減らして行って、あまり負担なく借金が減るように工夫していったらいいと思った。でも、貧しい子どもたちへの支援はずっと続けていった方がいいと思った。

質問2 この授業で、勉強になったことはどんなことですか。

- ・税をまだきちんと払わないから財政は関係ないんじゃないかと、自分たちにも関係があるということを学んだ。
- ・税の種類を学びました。自分は結構知っている方だとは思ったのですが、想像をこえる税の種類があり、とても勉強になりました。
- ・この日本が成り立っているのも税のおかげなのだと改めて勉強になりました。
- ・日本が借金まみれなこと。そして私たちが一生懸命、働かないといけないということ。
- ・税金が色々な場面で使われていることを知った。私たちの周りの物は税金で作られていることを知り、税金の大切さを知った。

質問3 授業の中で、難しかったことはどんなことですか。

- ・やはり1番は借金をどう減らしていくのかです。多額の借金を減らすために、たばこ税などを増やしましたが、それだけでは全然減らず、とても難しかったです。
- ・なるべく借金を減らすように予算を立てたが、かたよりがあつたりして、とても難しかった。
- ・自分たちで、日本の借金を減らしながら、税の調整も考えないといけないのがとても難しかった。

4 校外学習の実施

令和元年9月9日

租税教育係 畠中

校外学習「租税教育」実施計画（案）

1 目的

「租税教育」に関する施設見学・体験学習を通して、課題意識を高める。

2 期日

令和元年10月1日（火） 雨天決行

3 参加者

全校生徒（1年生7名・2年生11名・3年生6名）・引率者2名

計26名

4 目的地

① 鹿児島県庁

〒890-8577

鹿児島市鳴池新町10番1号 行政庁舎TEL（代表）：099-286-2111

② 鹿児島税務署

〒890-8691

鹿児島市荒田1丁目24番4号 TEL099-255-8111

5 日程

8：20	体育館前集合（健康観察・出発式）
8：30	羽島中学校 発
10：00	鹿児島県庁 着
10：05～12：05	鹿児島県庁見学（議会庁舎見学含む） かごしま県政セミナー「私たちのくらしと税金」
12：05～13：05	昼食（県庁内芝生） *雨天・降灰時は県庁2F会議室
13：10	鹿児島県庁 発
13：30	鹿児島税務署 着
13：35～15：05	鹿児島税務署（鹿児島税関支署の説明も含む） 見学・学習
15：15	鹿児島税務署 発
16：30	羽島中学校 着（解散式）

当日は、いちき串木野市の行政バスを利用させていただき、鹿児島県庁へ出発した。鹿児島県庁では、はじめに鹿児島県についてのDVD視聴と説明があり、18階の展望台からの景色も堪能した。

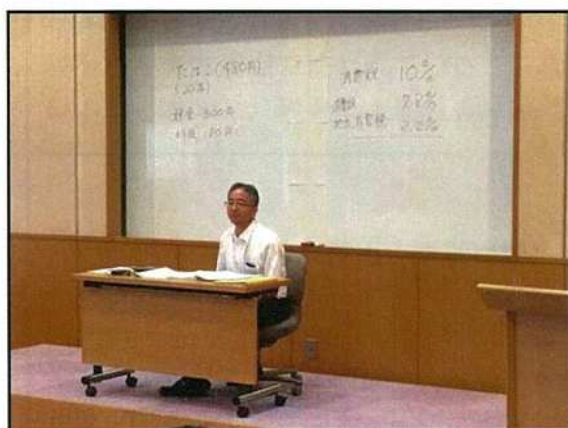


【出発式】



【鹿児島県の説明を聞く生徒】

その後、かごしま県政出前セミナーを受講した。鹿児島県総務部税務課の職員に「私たちのくらしと税」をテーマとして講義をしていただいた。「税とは何か」「国税・地方税の種類」という基本的な学習はもちろん、「県の財政」や「消費税の内訳」など県税についての具体的な学習まで、クイズを交えて説明していただいた。生徒も質問をするなど積極的に取り組んでいた。



【説明する税務課職員】



【質問する生徒】

鹿児島県庁2階の県政広報室で、昼食を取り、鹿児島税務署へ移動した。鹿児島税務署では、最初に鹿児島税務署職員から税務署の仕事について説明を受けた。続いて、長崎税関鹿児島税関支署職員から、「国税査察官の仕事」のDVD視聴後、税関の仕事の説明を受けた。



【説明する鹿児島税務署職員】



【説明資料 国税庁の組織】



【DVDを視聴する生徒】



【鹿児島税関支署職員の説明を聞く生徒】

生徒の感想

今日は校外学習でした。税についてたくさん勉強しました。自分が関わっていない税がたくさんありましたが、将来関わるかもしれない税を知ることができたのでよかったです。

今日は県庁と税務署に行きました。税に関することをたくさん学びました。僕は、税関という名前は知っていたけど、仕事内容は知らなかったなので、詳しく学べてよかったです。

今日の校外学習で、税関の仕事が印象に残りました。外国から運ばれてくる薬物などを取り締まる仕事はとてまかっこいいと思いました。また、税があるから過ごしやすい生活ができていると改めてわかりました。

5 長期休業中の課題における取組

(1) 作文

作文は平成30年度・令和元年度の2年間、社会科の夏休みの課題として取り組んだ。1年目は21点の提出があり、2年目は17点の提出があった。すべての作品を、中学生の「税についての作文」に出品した。以下の作文は、平成30年度に「日置地区法人会会長賞」を受賞した作文である。

「消費税とは」 2年女子

私たちの身近にある税として、消費税があります。日本で消費税が導入されたのは近年で、徐々にその消費税が高くなってきています。私たちが払っている消費税はどんな存在なのでしょう。消費税は物を買うとき、その値段に消費税がプラスされます。日本が消費税の導入を決めたときの税率は3パーセントでした。それが今では8パーセントにまで上がっています。この数値自体は世界的に見るとそれ程高いものではないと思います。しかし、日本では消費税を10パーセントまで上げるべきかと議論されていました。なぜ、消費税を上げる必要があるのでしょうか。税はもちろん消費税だけでなく、住民税や所得税・自動車税などがあります。しかし、それらの税は容易に税率を上げることができません。そうすると問題になるのが増税分をあてにしていた社会保障が中身の薄いものになってしまうことです。待機児童の問題、高齢者が生きやすい社会の実現のためにはこうした消費税や所得税・住民税が必要なのです。今の日本では、財源の確保が難しいため、若者への投資は優先されても高齢者へのサービスの提供は後回しにされてしまいがちです。しかし、高齢者が生き生きと暮らすことができなければ、その負担は介護という形で若者が背負うこととなります。さらに、食料品や日用品の税率を下げればそれだけ生活弱者の助けにもなります。私たちが毎日勉強している学校の校舎や、授業を受けるのに必要な教科書などは私は今まで、税金を身近に感じたことはなかったのですが、こういうところで、私たちを支えてくれたことに驚きました。今まで、学校がどうやって建てられているかなどということに注意を向けたことはなかったし、これが当たり前の感覚でした。友だちと話をしたり、授業を受けたりする。校舎があることも、それに使う教科書も、電気や水道が使えるにも別に何も疑問がなかったです。でも、その「当たり前の毎日」を作っているのは私たちが支払う「税金」です。毎日の生活の暮らしの中ではなかなか気づかないけれど、私たちの暮らしを支える。私たちが支払う税金が多くの人の手助けになる。



そして自分も気づかないうちにいろんな人に支えられている。お互いに助け合うことが大事だと思います。こうして分かった今、いつも見るレシートの「税」の文字が、私はもったいない物には見えませんでした。この先、日本の消費税はどこまで上がるかは分かりませんが、税を納めるということは義務でもあるのできちんと納めていきたいと思います。

(2) 標語

標語は平成30年度・令和元年度の2年間社会科の授業の一環として、「税の学習」後に取り組んだ。1年目は22点の提出があり、2年目も22点の提出があった。すべての作品を、中学生の税に関する作品「標語の部」に出品した。文化祭でも展示発表し、好評を得た。



【文化祭での展示】

税金は みんなのため に 社会のため に みんながはげ えば 世界が変 わる	税 に 関 す る 標 語
--	---------------------------------

納めよう 社会全体 未来のため に	税 に 関 す る 標 語
----------------------------	---------------------------------

税金は 僕たちの生 活に 欠かせない もの	税 に 関 す る 標 語
-----------------------------------	---------------------------------

(3) 習字

令和元年度は、国語科に協力をもらい、税の習字にも取り組んだ。19点の提出があり、すべての作品を、中学生の税に関する作品「習字の部」に出品した。

三年 申 告 確 定

羽島中 二年 役 割 税 の

羽島中 学校 一年 申 告 自 主

6 租税コーナーの設置



県租税教育推進協議会からの1年目の必要経費から「税に関する書籍」を購入させていただいた。

校舎2階の踊り場に購入した書籍や「税の作文の入賞作品」の冊子を展示した「租税コーナー」を設置した。

標語や作文に取り組む時に、参考にする生徒の姿が見られた。

以下は、購入した書籍のタイトルと出版社である。

- 「新くらしの税金百科」(清文社) 「図解いちばん親切な税金の本」(ナツメ社)
「図解わかる税金2019年版」(新星出版社) 「読めば得する税金の話」(総合法令出版)
「マンガでわかる!税金のすべて」(成美堂出版)

IV 研究の成果と課題

1 税に関する実態調査(アンケート)から

全校生徒に、税に関するアンケートを平成30年7月と令和元年6月の2回実施した。以下は、アンケートの内容とその結果である。

税についてのアンケート

質問1 税について興味・関心がありますか。

- 1 ある 2 少しある 3 あまりない 4 ない

質問2 税について家庭で話をすることがありますか。

- 1 ある 2 少しある 3 あまりない 4 ない

質問3 税金に関するニュースに注目しますか。

- 1 する 2 少しする 3 あまりしない 4 しない

質問4 税金は必要だと思いますか。

- 1 思う 2 少し思う 3 あまり思わない 4 思わない

質問5 税金が私たちの生活に役立っていると思いますか。

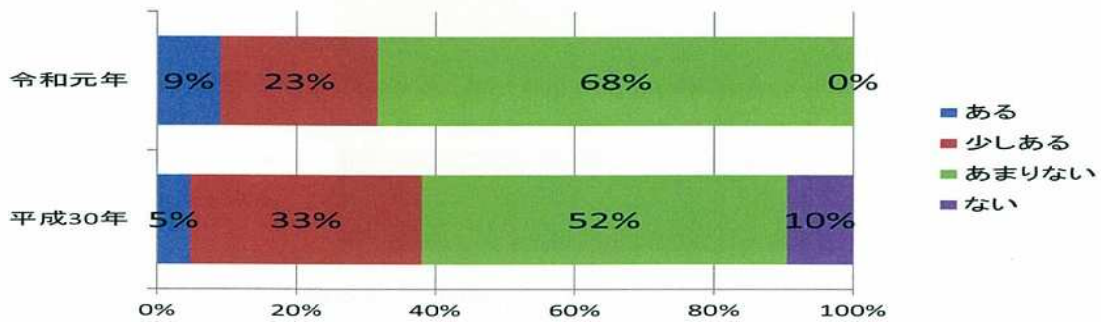
- 1 思う 2 少し思う 3 あまり思わない 4 思わない

質問6 税について学ぶことは必要だと思いますか。

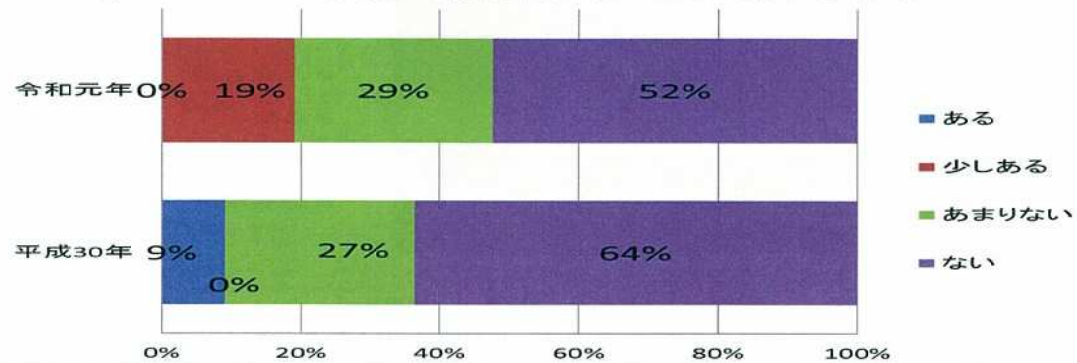
- 1 大変必要 2 必要 3 あまり必要ではない 4 必要ない

質問7 あなたが知っている税について書いてください。

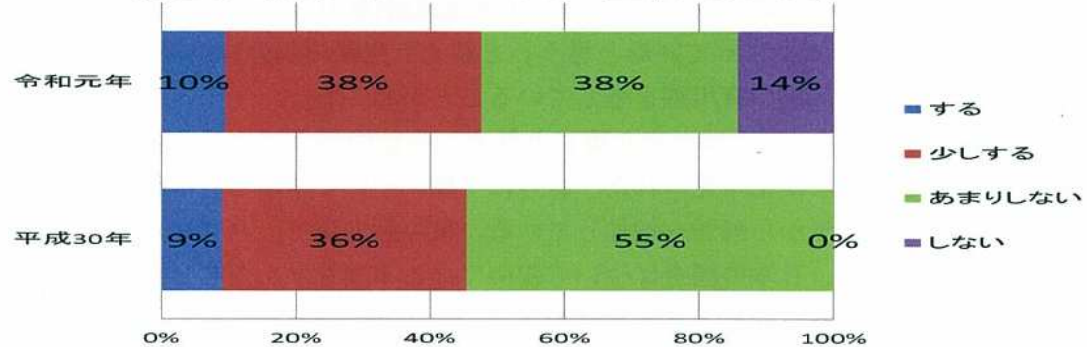
税について興味関心がありますか



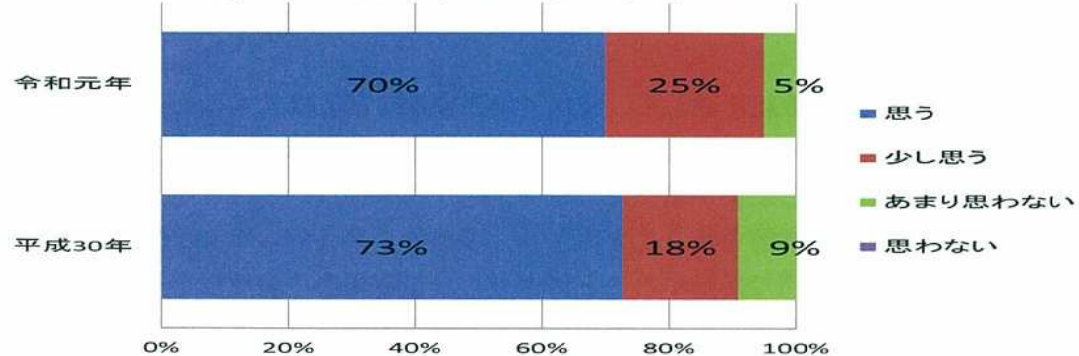
税について家庭で話をすることがありますか

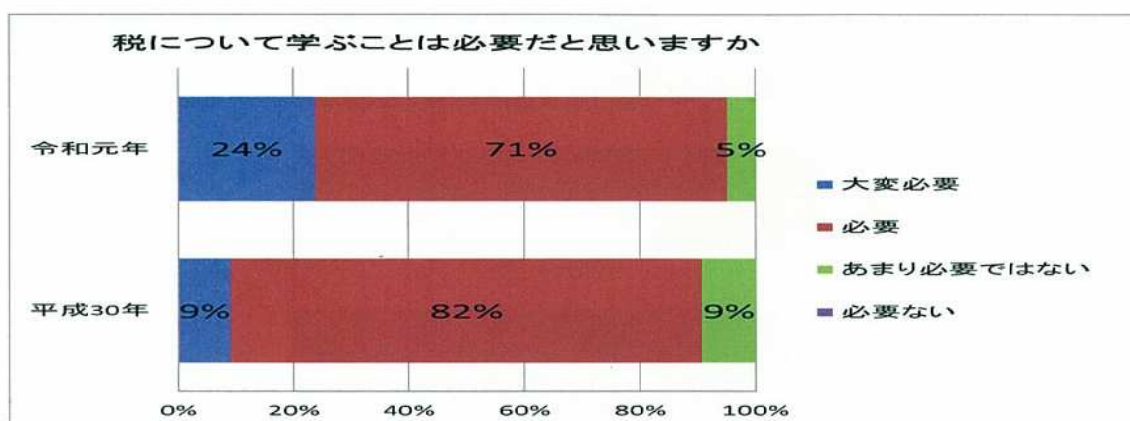
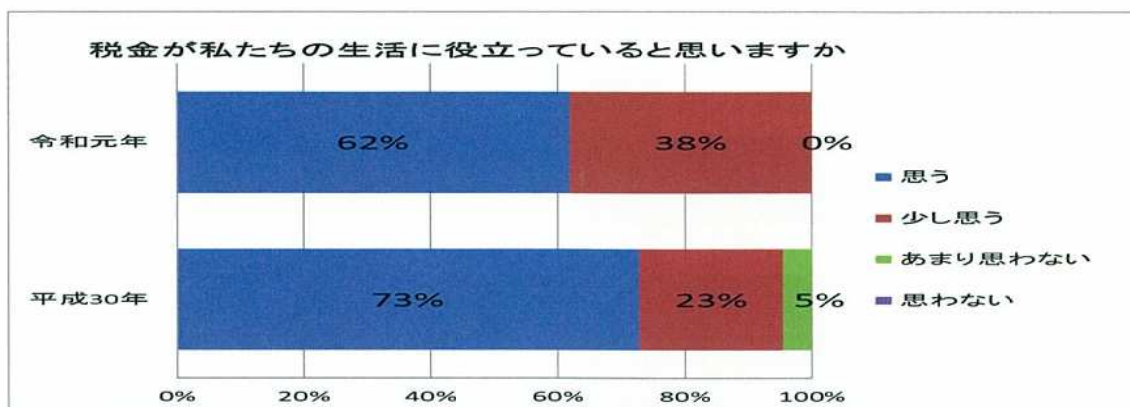


税金に関するニュースに注目しますか



税金は必要だと思いますか





実態調査の結果から、「税金は必要」と答えた生徒の割合が91%から95%に増加し、「税金が私たちの生活に役立っていると思う」と答えた生徒の割合は95%から100%になっているなど、生徒は税の有用感を感じていることがわかる。

また、「税について学ぶことは大変必要」と答えた生徒の割合は9%から24%と2倍以上増加するなど大きな変化が見られた。さらに「税について学ぶことは必要」と答えた生徒まで含めると91%から95%へ増加している。租税教室等で、タブレットを使い体験的な学習を行ったり、日本の借金について初めて知る事実を学んだりしたことが、このような結果へつながっていると考えられる。

2年間の租税教育によって、ほぼすべての項目で、税に対する意識が向上し、税について前向きに捉えられる生徒が増えたことが分かる。

2 研究の成果

- ① 2年間の租税教育の取組を通して、税に対する興味・関心はもちろん、正しい知識と理解を深め、アンケート結果からも分かるように税に対する意識が向上し、税について主体的に捉えられる生徒が増えた。
- ② 体験的な学習や校外学習を行うことにより、多面的・多角的な視点で学ぶことができた。また、異年齢集団で活動することにより、自己有用感の育成にもつながった。
- ③ 教職員が租税教室に参加したり、租税に関する研修を受けることにより、租税教育に対する興味・関心を高めることができた。

3 今後の課題

- ① 租税教育の取組が、社会科や国語科を中心とする研究にならざるを得なかった。他教科でも具体的な実践研究が行えるような方策や事例を探る必要がある。
- ② 「家庭で税の話をする」と答えた生徒の割合は、9%から19%へ増加し、2年間の研究がある程度の成果をもたらしているといえるが依然として低い。今後は、租税教育の実践を、家庭や地域社会へ積極的に発信する必要がある。

V おわりに

平成30年度から令和元年度の2年間にわたり、鹿児島県租税教育研究委嘱校として、「租税教育を通して、税に関する興味・関心を高めるとともに、税や財政についての理解を深め、主体的に社会を支えようとする態度や資質を育成する。」を研究主題として取り組んできた。

3年生の学活で、誇れる日本にするために「これからの日本」について話し合う場面があった。「増税はいいが、使い方の工夫が必要」「一部の人が利益を得るのではなく、全体の利益になる使い方をしないといけない」など、税について学んだからこそ言える発言があり、授業内容が充実したものになったと担任から聞いた。2年間の取組が生徒たちにとって有意義なものになったのではと感じる。

今回の取組を通して、生徒が税の役割や重要性に気づき、今後、主たる納税者の一員として主体的に行動できる人間に成長することを期待したい。

最後に、今回、このような研究の機会を与えてくださった、鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、伊集院税務署、財務省九州財務局鹿児島財務事務所、鹿児島税務署、長崎税関鹿児島税関支署、その他関係機関の方々に多大なる御協力や御指導を賜った。心よりお礼を申し上げたい。